

2019/11/08 不登校に関する研修会

思春期の発達的特徴を踏まえた 不登校支援のあり方

神戸大学 齊藤誠一

0. エピソード

1. 児童期と思春期の発達的特徴
2. 不登校のタイプと対応
3. 不登校対応をめぐる諸問題

エピソード1(中1女子)

小学校の時から、目立つ存在ではなく、中学への引き継ぎ事項もなかった。中1の1学期当初は体育委員に立候補して、部活も楽しく参加していた。しかし、GW明けの集団宿泊行事が終わった頃から学校に来にくくなり、少しずつ欠席も目立つようになってきたが、学校に来ている時には明るく、問題を感じさせることもなかった。徐々に不登校状態になり、家ではゲームとアニメで過ごすようになった。SCとの面接では以下のことが話された。①小学校までは短パン、Tシャツで過ごせたのに、なぜスカートをはかないとならないかわからない。②好きな髪型にしたいのに細かいことまで決められて、それもできない。③小学校まで「さん付け」で呼ばれていたのに、中学でいきなり呼び捨てにされ、ある先生は機嫌のいいときと悪いときの差が大きく、それも嫌だ。

エピソード2(中2女子)

小さい頃からピアノを習い続け、かなり上達したが、中学校に入ったら他のこともしたいと思い、両親の反対を押し切って運動部に入部した。ピアノとは違うスポーツは楽しく、毎日元気に通学していた。もともと友人は多い方ではなく、友人といつも一緒にいなくても平気だったが、部活のある同学年生とちょっとしたトラブルが起きた。たいして気にもとめず帰宅し、翌日学校へ行くと、クラスの友人が自分を避けるような気がした。同じようなことは部活でも起きていたので、不思議な気持ちになったが、別の部の知り合いからトラブルになった相手が知り合いにLINEで自分の悪口を回していると教えてくれた。それを聞いて、ばかばかしくなり、学校に行く気がしなくなり、休むようになった。事情を知らない父親は「だから、おまえは何をやっても中途半端でだめなんだ」とどなり、担任は「がんばれ！」と言ってくる。ますます学校に行く気がしなくなった。

エピソード3(中3男子)

成績も上位、部活でもレギュラーで、友人関係も良好であった。3学期に入り、時々遅刻したり、欠席したりするので、担任が何気なく話を聞いてみたが、ちょっと体調がよくないとのことであった。その後、毎週火曜を休みようになったので、保護者と面談すると、朝になると体の不調を訴えること、理由も聞かずに父親が登校を強制していることがわかった。SCとのカウンセリングに引き継がれることになり、そこで本人から以下のことが話された。①同じクラスの生徒が嫌なことを言ったり、からかいをしたりするのが不快。教師に相談しても「気にしすぎだ」と言われ、真剣に聞いてもらえなかった。②自分はやる以上はちゃんとしたいので、遅刻や早退をするくらいなら学校へは行きたくない。③本当は引き受けたくないけど、委員に立候補してしまい、その仕事がちゃんとできないのもストレスだ。

エピソード4(不登校生Xをもつ担任と保護者)

不登校生に対しては家庭訪問が大切だと言われるので、3ヶ月近く学校に来ていないXには週に1, 2度家庭訪問をしている。最近では、Xの気持ちもだいぶ落ち着いてきたようで、自分とも会って話をしてくれるようになったので、帰りがけに「そろそろ学校に来れるかなあ」と言うと、Xは「はい」と明るく答えてくれた。何度かこうしたやりとりがあったが、Xは学校に来ることがなかったので、保護者に「Xさんは自分で学校に行くと言っているのです、私との約束を守るようにお母さんから伝えて下さいね。学校としてできることはやってきたつもりですので、こんどはXさんとお母さんががんばる番ですよ。」と励ました。

1. 児童期と思春期の発達的特徴

(1) 児童期

自己中心性からの脱却(脱中心化)

具体的操作期(つるかめ算の世界)

勤勉性 対 劣等感(学校で活躍できるか)

価値の絶対性(他人の悪いことを許せない)

友人関係の拡大(遊び友達／ギャングエイジ)

家庭外時間の増大→社会関係の拡大

(2)思春期

①認知的発達

形式的操作期(方程式の世界)

価値の相対性(先生のいないところではちょっとズルをする)

②情緒経験の豊富化／苛立ち経験

おもしろい→多様な情緒体験

これまでにない苛立ち／むかつく

③自己違和感 (自分の体でない感覚←身体発育)

→④自我の覚醒

<反抗の意義>

親子関係の変化

①～④→偶像崩壊

保護・脅威・服従→批判・反抗の対象

脱衛星化
心理的離乳
第二反抗期



子供の地位を捨てる



心の友
青年文化



境界人／周辺人

心理的／社会的不安定

(3)なぜ自転車の3人乗りをするのか？

思春期の脳発達の特徴

組織的特徴

- ①シナプスの刈り込み(無駄な回線は取り除く)
- ②髄鞘化(大事な回線は強固にする)

機能的特徴

- ①前頭前野:発達途上で他の領域とのズレ
アクセル(刺激欲求／衝動行動)が強く、
ブレーキ(実行機能／衝動統制)が弱い。
- ②異なる脳領域間の協同機能は未形成

(4)なぜやめられないんだろうか？

スマホ依存／ゲーム依存(時間があれば)

報酬系

ゲームで高得点を取る→うれしい

ドーパミン→満足感／快感

→ゲームを見ただけで報酬系が活性化

→高頻度:ドーパミンに対する感受性低下

→強い刺激

→脳のダメージ

2. 不登校のタイプと対応

(1)タイプ

分離不安型(保護者と離れるのが不安)

神経症型(行きたくても行けない／優等生の息切れ型)

無気力型(学校に活躍できる場がない)

非行型(受け入れてもらえない不安)



みんなからよく思われたいタイプ

こうしないと気がすまないタイプ

悪気なく不愉快を買ってしまうタイプ

(2)不登校への具体的対応(例)

(著作権の関係で割愛)

3. 不登校対応をめぐる諸問題

(1)不登校キーワード

○登校刺激

何が正解かわからない

○毎朝の欠席連絡

子どもも保護者も朝7時から8時は魔の時間帯

○熱心な家庭訪問

やたらと教師が家に来るというストレス

○過剰適応型児童・生徒の落とし穴

人前で格好の悪いことはできないという強い信念

○発達障害(傾向)要因

「わがまま」「やる気がない」と決めつけない

○別室登校／適応指導教室

行ったら学校へ2度と戻れなくなるという都市伝説

○スクールカウンセラーか外部機関カウンセラーか

どちらもOK！うまく利用することがポイント

○登校再開か心理的問題解決か

登校再開できるに越したことはないというスタンス

○いじめと不登校

安易な仲直り儀式は逆効果

(2)保護者への関わり

困っているのは、本人，保護者，担任という認識

- ①責めない
- ②支える
- ③見捨てない
- ④一緒にやっていく

(3)学校としての関わり:チーム学校

- ①担任ができること
- ②担任ができないこと
- ③他機関／他職種連携

＜保護者が生きている時期／生きてきた時代を理解する＞

○成人前期(20代半ば～40歳頃)

○成人後期／中年期(40歳頃～65歳)

→思春期との対応／社会的変化／身体的変化

	年齢帯		A		B			
祖父母	50	55	60	65	70	75	80	85
親	20	25	30	35	40	45	50	55
子			0	5	10	15	20	25

注)健康寿命(男70.62／女73.62) 平均余命(男79.55／女86.30)